

二〇一七年度

沖縄大学 一般入試（中期）

「国語」

問題用紙

・法経学部 法経学科

・人文学部 国際コミュニケーション学科

福祉文化学科

国語

※答はすべて解答用紙に書きなさい。

【問題】 つぎの文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

これからまた暫らくのあいだ、私どもの周囲にはいろいろな花が咲いたり、飛び交う蝶の姿が見られるようになります。私が、多少普通の人よりもそういうものに関心を持っていることを知って、近所の子供たちが、時々虫などをつかまえて来て私にその名を訊ねるのです。こんな大きな蛾がいたよ、小父さんこれなんていうの？ 彼は少し手に負えないいたずらっ子で、うちの生垣の竹の棒を抜いて、野球のバットにしていたこともありまし、木のぼりをして枝を折ることも専門家です。その子が水色の、大きな蛾を一匹つかまえて来まして、その一枚の翅をつまんで私に名前を訊ねるのです。「そんな風につまんでいるとばたばたあばれて翅の①をみんな落してしまう、蛾でも蝶でも、こういう風に持たなくちゃあ」そういつて私はまず持ち方を教え、「A 【その蛾はオオミズアオ、あるいはユウガオビヨウタンという名であることを教えます。どうも忘れそうなので、紙にその名を書いて渡します。この蛾の幼虫がどんな形をして、どんな植物の葉を食べるか、②幸にして私はそれを知ってはいましたけれど、彼はまた小学校の三年生、ただ名前を知ればよいのです。というより、彼が知らないと思つたのはその名前だけなのです。」

(1)「知識の獲得には、ある不思議な快さと喜びがある」という古い言葉がありますが、この平素はいたずらの専門家である彼も、確かに満足の色を顔に浮べて帰って行きます。私はこういう風にして幼いものから何かを訊ねられた時、たとえ自分が手を離れたくない仕事をしている時でも、少くもいやな顔は見せないようにして、そうしてその名を知らない時、あいまいな時には、その子供と一緒に本をしらべるようにしています。

詩人の尾崎喜八さんが、昔、あの植物学者の牧野富太郎氏をかこむ植物同好会の人々と採集に行かれた時の文章に次のような箇所があります。それは、先生、これは何ですか、これは何と申しますかと、次々に訊ねられる時牧野博士はそれをたちどころに説明されることなのですが、それに続いて、次のような文章があります。「先生が日本の植物に対して百の名称を断ぜられるとしても、僕はただ先生の記憶の強さ、知識の広さに驚くだけである。植物学者としての先生の大きなカリテから見れば、それは当然な事のように思われる。しかし一人の③可憐な小学生が——腰に小さい風呂敷包の弁当を下げ、肩から小さい胴乱をつるした子供が、何か小指の先ほどの植物を探して来て『先生これ何ですか』と訊いた時、『これは松』といいながら、その子の頭へ片手を載せられた時の、あの温顔の美しさを僕は忘れない」

私はこの一節が非常に好きなのです。そこには、知るということ、そのための人間同士に通う暖かいものが感じられます。ただ人間としてこれだけのものは知って置かなければならない、このくらいのこととは知っていないと馬鹿にされる、そういう気持で本を読んだり、学校へ通って勉強をする、それも確かに必要なことなのですが、【B 【もし一方は教える他方はそれを教わるという関係

だけならば、それは全く機械的なものになって、④遂には試験のために勉強をするという、今ではあたり前のことになってしまった⑤げんしようも生まれて、知ることによって快さや喜びが伴って来るような、極く素朴な姿があまり見られなくなってしまいました。私自身にしましてもそういう傾向は確かにあるのですが、自分の知らないことでも、もう誰かは必ず知っている、もっと手取り早い方を見れば、⑥大概のことは本に書いてあると思つてしまつて、特に知ろうとしないのです。さまざまの事典と名のつく本が出ることは、それに誤りがない限り実にはありがたいことなのですが、これだけ手許に持っていれば必要な時にその知識をそこから引き出せるという考え、これは案外恐ろしいことではないかと思つています。昔の人は私たちより知識の持ち方は少かつたと思つて。また、その知識も誤つていたことが多いかも知れません。コロンブス以前の、大多数の人々は別の大陸があるかも知れないということは恐らく考えなかつたでしょうし、このようにして人間の発見や発明が一般の人たちにも知識を殖やして行つたことも事実であります。しかし、(2) 知ることと、知らされることの違ひを考えてみて頂きたいのです。私は、少くも今日ここでお話をしている限りでは、知ることの中には、知りたいという意欲がはつきりしている場合を考えています。これだけのことを知つていないと笑われるとか、現代人としての常識に欠けているといわれそうな、ただそのために知るのであれば、外部からの強制的な力によつて知ることを努力しているに過ぎません。そういう人は自分はどうでもよいのです。笑われる、馬鹿にされるという理由だけで動いているのです。それでも全くの無関心な状態に比べればいいでしょうけれども、しかしそうして知識を得る時には喜びはなくてむしろ苦しみがあるばかりだと思つて。【 C 】もつと恐ろしいことは、知つてゐる振りをするためになるべく苦勞の少い手段を選んで、知つた振りをするのに必要な知識だけを手許、口先へ用意して置かうという態度です。私の知つてゐる若い方々の中には、話をしてゐると実に博識だと思われる人がいます。文学についても、美術や演芸その他の芸術についても、政治についても国際⑦じようせいについても実によく知つてゐるように見えるのです。そして知つてゐるだけでなしに、それらに対して批評もしますし、またそれに対する自分の立場もあるらしく見受けられるので、話をきいてみると、私などは少し恐ろしくなつて来ます。けれども少しこちらが意地悪く訊ねかえてみるとか、もう少し⑧くわしい説明を求めたりしますと、ところどころあやしいことが出て来ます。【 D 】簡単に申しあげれば、それらの沢山の知識の大部分はいわば借物だったので。知識だけでなく、それらの人の使う言葉の多くが借物だったので。それは特に学術的な用語、あるいは哲学用語といえるような単語の場合、それが目立つて感じられます。この知識の借物といふことはなかなか魅力のあることでありまして、はでな衣裳を着て自分を飾ることと少しも変わりありません。しかしそれは、この頃のように、そのために⑨至極便利なダイジェスト式の本が出ていますと、比較的時間もお金もかからずに出て来ることで、これもまた前に申しあげた事典類とともに、悪く利用しますとかなり危険なものだといえます。この借物の知識でも自分の身を飾る魅力というのは、恐らく人間の心の中に根強く巢を造つてゐる自尊心、虚栄の心によるものと思われまふ。ブレーズ・パスカルがこの虚栄心についていつた有名な言葉をここに引かせて頂くことにします。

「虚栄は人間の心に深く喰ひ込んでゐるもので、兵士も従卒も料理人も人足も、それぞれ自慢して自分の⑩崇拜者を得ようとする。哲学者さえ同じことを望む。榮譽を否定する論者も、よく論じたといふ榮譽は得たいと願う。またそれを読む人も、それを読んだといふ榮譽を得ようとする。そしてこれを書いてゐる私も、恐らく同じ欲望を持つてゐるだろう。また恐らくこれを読む人も……」

⑪ げんみつに考え始めますと、これはむずかしいことになりましようが、(3) 虚栄のための知識あるいは自分の身を飾るための知識は、いざとなったら何の役にも立たないということをご思い切って申しあげまして、本当に知りたいと思うことを改めて考えて頂きたいのであります。大きなことでも小さなことでも、具体的な現実の問題でも、抽象的なことでもそれは構いません。私が指図をすべきことではないのです。もしそういうことがあって真剣にそれを知ろうとして獲得することの出来たものなら、それはたとえ本から得たものでありましようとも、あるいは幼い子供から教えられたものでありましようとも、必ず自分のものになって、それが素朴な要求であればこそ喜びを伴い、またそれが今すぐに役に立たないものであるにしても、いつかは必ず、形をかえて自分の成長に役立つたというはつきりした⑫ しよこを見せてくれるにちがいありません。

先程、本当に知りたいことを改めて考えて頂きたいと申しまして、その内容については私が指図をすべきではないといったのですが、そのことで最後に一言だけつけ加えさせて頂きますと、知りたいと思つて、それがかなり⑬ めんどうなごのように見えましても、その気になりさえすれば案外簡単に分ることもあります。ラジオのスイッチをひねることは、ラジオについての知識を持つていることではありません。それは聞くために、定められたところをひねることが出来ることです。けれどもその構造を知ることその気になれば決して不可能ではありません。人間が作ったことは分らないことはまずあり得ませんが、簡単に知ることが出来るので⑭ 厄介なのは、人間の心です。他人の気持も勿論そうですが、自分自身のことは一番よく知らなければならぬのに一番知ることの困難なことだと思ひます。

(串田孫一「知ることについて」『緑の色鉛筆』平凡社、二〇一六年。一部を改めた)

問一 傍線部①から⑭の漢字にはひらがなで読みをつけ、ひらがなは漢字に直しなさい。

問二 【 A 】から【 D 】にあてはまるものを次のなかから選んで入れなさい。

【 それよりも つまり そこで それから 】

問三 本文中に(1)「知識の獲得には、ある不思議な快さと喜びがある」とあるが、この言葉に該当する内容には○を、該当しない内容には×を、それぞれつけなさい。

- ① () 近所のいたずらっ子が生垣の竹の棒を抜いて野球のバットにしたこと。
- ② () 植物の名前を知りたい小学生が植物学者に教えてもらったこと。
- ③ () 試験のために一生懸命勉強し、良い成績を上げたこと。
- ④ () 人から笑われないために一般常識を身につけること。
- ⑤ () すぐに役立たなくても本当に知りたいことを追求すること。

問四 (2) 知ることと知らされることの違いを筆者はどう考えているか。一〇〇字程度で説明しなさい。

問五 (3) 虚栄のための知識、あるいは自分の身を飾るための知識は、いざとなったら何の役にも立たない」とあるが、それはなぜか。「借物」という言葉を用いて一〇〇字程度で説明しなさい。

問六 この文章の「知る」という行為を中心にあなたの意見や感想を二〇〇字程度で書きなさい。